

平成29年4月1日
京 都 市

平成28年度の業務履行に対する評価及び意見について（まとめ）

平成29年3月22日開催の第14回京都市ごみ収集業務評価推進会議において、平成28年に実施した「市民アンケート調査結果」及び「市民アンケート結果とセルフチェック結果の比較」などに基づき、各委員から平成28年度の業務履行に対する評価や意見をいただいた。

アンケート調査結果などから、これまでの様々な取組を前向きに評価していただいたが、課題に対する意見は次のとおりであり、今後のごみ収集業務の改善に活かしていく。

意見1：分別・リサイクルに関する周知啓発の推進

平成27年10月のごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」の施行後、確実に分別が進んでいるものの、市民アンケート調査では、プラスチック製容器包装の分別に関して、分かりにくいとの意見が出ている。今後は市民のごみ減量の成果をアピールするとともに、どのような動機付けを行えば、市民の自発的なごみ減量、分別リサイクルの取組が進むのか検討を進めること。

意見2：雑がみ分別・リサイクルの取組の総括について

平成26年度から実施している雑がみの分別・リサイクルの取組は、この間のごみの減量に大きく寄与している。これまでの取組の総括を行い、課題の分析等を行ったうえで、効果的な市民への周知啓発を行い、更なる分別・リサイクルの取組を推進すること。

意見3：燃やすごみの完全午前収集の着実な実施

昨年10月から燃やすごみの完全午前収集を全市域で開始したことは大いに評価できる。この取組を安定的かつ着実に実施することは、市民サービスの向上に大きく寄与する。このため、引き続き、ごみ減量に係る効果的な施策を講じることなどにより、燃やすごみの完全午前収集を着実に実施すること。

意見4：安全運転に向けた取組

多くの市民がごみ収集車の運転についてスピードの出し過ぎや無理な車線変更、マナーの悪い運転等を「見かけたことがない、ほとんどない」と回答されているが、依然として、「時々ある、よくある」といった回答が一定数存在している。市民目線に立った運転を徹底するため、今年度から導入されたドライブレコーダーを活用し、職員の運転に関する研修を継続的に実施すること。

また、職員のメンタルヘルス対策も含めた安全運転・安全作業に関する実効性のある取組を引き続き推進すること。